

木崎中だより	4号	平成28年7月2日(土) さいたま市立木崎中学校 048(886)4302
--------	----	---

人への思いやり

校長 大澤 敬

梅雨は鬱陶しいものですが、これがあるからこそ夏の強烈な日差し、青い空、白い入道雲が待ち遠しいのかも知れません。早いもので期末テストを乗り越えればあと20日足らずで今学期も終了です。もうひと頑張り、張り切っていきましょう。

さて、今日は人への思いやりについて書きたいと思います。学校から出張に行くために電車に乗った時のこと。車内にはちらほらと立っている人もいました。私の前の座席を見ると座っている女性の両側の間隔が微妙に空いています。どちらかに詰めてくれればあと1人は十分に座ることができます。この女性が詰めてくれることを期待しましたが、スマホの画面に見入ったままで動いてはくれませんでした。そして先日の修学旅行でも同じような経験をしました。2日目の班別行動で私も電車に乗って移動したのですが、京都には4人が向き合って座れるタイプの、いわゆるボックスシートの電車があります。その座席の男性は荷物を隣に置き、2人掛けの座席を1人で占領していました。車内には立っている人もいました。しかし男性はそれを気にする風でもなく座り続けていました。実は私は以前にもこんな光景に出会い、「すみません、ここ座っていいですか？」と声をかけたこともあります。別にどうしても座りたかったわけではないのですが、本人たちにこの迷惑行為に気が付いてほしいと思ったからです。すると嫌な顔をするでもなく、舌打ちをするわけでもなく、すぐに座らせてくれました。嫌なオヤジだと思われたとは思いますが、彼らに悪意があったわけではないことは分かりました。気が付かないだけです。しかし言わなければ気が付かないことに残念な気持ちは残りました。

次にこれとは反対の話で、今回の修学旅行でのことです。東京駅で新幹線を降り、閉校式を行うため丸の内南口まで長い距離を歩いて移動しました。東京駅は混雑しており、様々な方向から人が行き交います。その中を長い行列で移動するのですから、当然人々の歩行を邪魔することがあります。私たちが通り過ぎるのを待っていている人もいました。そんな状況の中で「すみません。ありがとうございます」というしっかりとした声が聞こえてきたのです。木崎中の生徒が自分たちの通行のために迷惑をかけている一般の人たちに謝っている声でした。疲れている中で、自分が周りに迷惑をかけていることを自覚し、素直に言葉に出す。大人でもできないことです。

この2つの行為の違いはどこから来るのでしょうか？簡単に言えば、どんなことが他人に迷惑をかけるのか、嫌な思いをさせてしまうのかという感覚が敏感かどうかの違いだと思います。そしてその感覚の敏感さの違いは、人への思いやりの深さという形で表れてくるような気がします。詰めずに、座りたい人に迷惑をかけていることに気が付かない人は、きっと他の面でもそういうことが多い人だと思います。自分が通行の邪魔になっていることに気付き、素直に謝罪できる人は他のことでもよく気が付き、人への思いやりも深い人ではないでしょうか。そして私はこの敏感さは公私の区別をしっかりと自覚して生活しているかどうかによって左右されると思っています。公共の場を自分の部屋と同じように考え、「私」を持ち込んでいる人はこの敏感さは育ちません。なぜなら自分の部屋では他人を気にしなくていいからです。電車で化粧をすること、路上に座り飲食をすること、自分の部屋では許されても公共の場ではふさわしくない行為です。そのことがわからない人には他人への思いやりは育ちません。一方で「私」と「公共」の区別をしっかりとわきまえている人は、この感覚が育てられ、敏感になります。難しい話になってしまいましたが、結論は「公私の区別をつけ、周りにしっかりと目を向けることが、人への思いやりの心を育てる」ということでしょうか。木崎中の生徒にそんな人がいたことを私は誇りに思います。